

SDG s と消費者教育



SDG s という言葉を最近よく耳にしたり目にしたりするようになりました。小中学校でも総合的な学習の時間や社会科、家庭科等で扱われることが多くなったのではないのでしょうか。

くらしのセンターでは、浜松市消費者教育推進計画に基づき、学校における消費者教育の推進に取り組んでいますが、本年度は中学生を対象とした SDG s に関する出前講座を実施しています。教育総務課との連携で昨年度末に希望調査を行い 21 校から依頼があり、関心の高さを感じました。

出前講座では、SDG s の 12 番目「つくる責任 つかう責任」を通して、消費者の選択は商品や企業への投票であり、それは未来を創ることにつながることを学びます。11 月に訪れた中学校では、生徒から次のような感想が聞かれました。

- 商品選びに対する意識が変わったと思う。以前は、安さや味ばかりを追求してエシカルなマークやラベルを気にすることは一切なかった。自分だけにとどめるのではなく、家族や地域の人にも広げたい。
- 知らないうちに世界で起きている問題の加害者になっているということを知った。これからも SDG s のことをもっと知り、SDG s 達成の協力者として生活したい。

「消費者教育」は「生き方教育」だと思います。今、目の前で起きている問題をまず理解すること、そして一人の人間として自分はどのように行動するかを考えることが深い学びにつながると思います。授業で「地産地消・食品ロス・フェアトレード・エシカル消費・SDG s」を学ぶ際、自分はしたらよいか考えたり、社会に働きかけたりする活動を加えていくとよいのではないのでしょうか？それは宣言や調査、企業や事業者の手紙を書く等の活動、いろいろな工夫できると思います。

今年も 11 月に浜北給食センターでフェアトレードのごまを使った給食が提供されました。これは、浜松市がフェアトレードタウンであることから実施されたものです。フェアトレードもエシカルです。こうした機会をとらえてフェアトレードについての理解が広がることを願っています。



私たちは、SDG s 達成のために消費者という立場でできることがあります。それはエシカル消費です。「人・社会・環境・地域を思いやるエシカル消費」を実践することは、SDG s の目標の **1 番：貧困をなくそう、2 番：飢餓をゼロに、4 番：質の高い教育をみんなに、10 番：人や国の不平等をなくそう、13 番：気候変動に具体的な対策を、15 番：陸の豊かさを守ろう**、等の目標達成に寄与します。

来年度は、小学生を対象とした SDG s の出前講座を計画しています。是非ご活用ください。

浜松市くらしのセンター 消費者教育コーディネーター 杉本 真弓

<3、4部会の実践紹介>

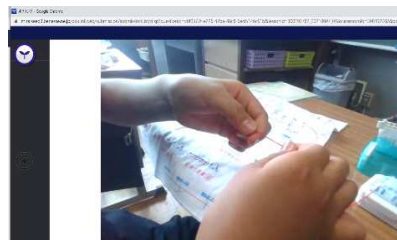
和田小 5年「ソーイング はじめの一步」

【実践内容】

初めて裁縫セットを使って手縫いの活動を行うため、一人一人が自分の課題に合わせて必要な資料を参考にしたり、技能の習得を確かめたりするために、タブレットを活用する場面を設定した。

○動画の視聴 ・教科書のQRコードを読み込み、玉結び、玉止め、縫い方など、自分が分からないところや確かめたい動画を見ながら、練習布や小物作りを行った。

○動画の撮影（オクリンク）・玉結び、波縫い、玉止めの動画を撮影し、自分の技能の習得の様子を確かめることが出来るようにした。また、撮影した動画と「気を付けている点、縫い方のポイント」などをまとめて提出させることで、教師の見取りに活用した。



<オクリンクでの動画撮影>

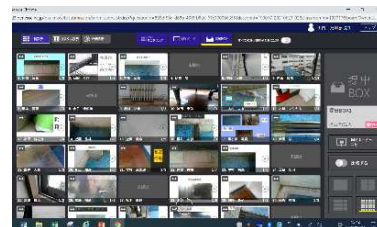
【成果】

タブレットを使うことで、自分が見たい映像を、必要に応じて確認することができた。縫い方のポイントを見つけたり、途中で止めて繰り返し確かめたりしながら裁縫に取り組むことができた。自分の映像と教科書の動画を比べ、より上手に縫うことができるように工夫する子も見られた。また、撮影した動画を提出させることで、教師も一人一人の状況を把握し、支援や声掛けが必要な子を確認して授業に生かすことができた。

新津小 6年「クリーン大作戦」

【実践内容】

学校内の汚れを観察し、どこにどんな汚れがあるかについてタブレットを持って探しに出掛けた。汚れのある場所を見つけたら撮影をし、教室に戻って写真を見ながら汚れの種類や掃除の方法について考えた。その後、ミライシードのオクリンクを使って、グループや学級全体で調べたことを共有し、どんな掃除道具を使えばよいか、家庭での掃除に生かせそうなことはいかなどについて話し合いを行った。



<オクリンクの提出ボックス>

【成果】

タブレットを用いることで汚れの様子を伝えやすくなり、話し合いが活発になった。同じような場所を撮影してきた子同士で写真を送り合っ、掃除の仕方を考えることができた。また、全体でも写真を元に汚れの様子や掃除方法などを話し合うことができ、家庭での掃除に生かせそうなことを共有することができた。

<編集後記>

タブレットを活用しての5、6年生のICTの実践です。5年生の実践では、動画を視聴しながら縫い方のポイントをつかみ、自分の手縫いの様子を動画で撮影して自分の技能習得の様子を確認するなど主体的に学ぶことができました。6年生の実践では、学校内の汚れを撮影し、写真を送り合うことで話し合いが活発化し、提出ボックスのたくさんの映像から考えが広がりました。今後さらに研究されていくタブレットを活用しての授業に大変参考になる実践だと思い、紹介させていただきました。（積志小学校 倉橋 恭子）